

平成 29 年度年報発行にあたって

公益財団法人泉屋博古館の平成 29 年度年報をお届けいたします。昨年より、当館の活動をより身近に理解していただくため、カラー版の年報を作成することといたしました。

泉屋博古館は、住友家が収集した世界的に高名な中国青銅器コレクションと、京都鹿ヶ谷の土地、建物の寄贈を受け、昭和 35 年（1960 年）に財団法人として設立されました。「泉屋博古館」の名称は、江戸時代の住友の屋号「泉屋」と中国宋の時代に皇帝の命により編纂された青銅器図録「博古図」から採られています。

その後、住友家から数次にわたり中国絵画、日本絵画、書跡、茶道具、洋画などの美術品と、東京六本木の土地および基本金の寄贈を受け、平成 14 年（2002 年）には東京六本木に分館を開館しました。住友各社からは基本金の寄贈に加え、グループの文化貢献の一環として毎年の賛助金による支援を行っていただいております。当館は事業収入と住友グループほかからの寄付金収入により運営されています。

現在、当館は国宝 2 点、重要文化財 19 点をはじめとする約 3,500 点の美術品を所蔵し、京都東山の麓、四季折々の自然と史跡に恵まれた鹿ヶ谷に檜林庭園を擁する本館と、東京六本木のビジネス・エリアにありながら住友家旧麻布別邸の緑豊かな庭園を臨む分館の 2 館で保存、調査研究、公開の各事業を行っています。

この、京都・東京の 2 つの国際都市に美術館を構えるユニークさを生かし、当館では、本分館それぞれ独自の企画展示に加えて、京都で育まれた美を東京に、また東京の館蔵美術品を京都に紹介する活動にも意を注いでおります。昨年初夏に京都本館で開催いたしました、明治期京都で活躍した日本洋画壇の先覚者浅井忠の特別展「浅井忠の京都遺産展」は、秋の六本木分館での特別展としてご紹介し高い評価をいただきました。また、昨年秋に本館で開催いたしました木島櫻谷の特別展「近代動物画の冒険」は、多くの皆様に観覧いただき、またメディアにも多数紹介いただくなど、近代京都を代表する日本画家櫻谷を更に多くの方々に知っていただく展覧会となりました。本年は、この木島櫻谷の作品を初春の東京分館にて展示公開する予定としております。

このような当館の事業は、来館者、賛助会員の皆様並びに学術関係の方々の厚いご支援により成り立っております。皆様には心より感謝申し上げますとともに、引き続きのご支援、またご指導をどうぞよろしくお願い申し上げます。

公益財団法人 泉屋博古館
理事長 宮原賢次



公開事業の概要

本館（京都）

展覧会名	期間	入館者数			
		有料	優待	計	1日平均
楽しい隠遁 山水に遊ぶ —雪舟、竹田、そして鉄斎	3/4～5/7 (55日間)	3,646	2,234	5,880	107
浅井忠の京都遺産 —京都工芸繊維大学美術工芸コレクション	5/20～7/9 (44日間)	3,661	3,270	6,931	158
うるしの彩り —漆黒と金銀が織りなす美の世界	9/2～10/15 (38日間)	2,352	1,661	4,013	106
木島櫻谷 —近代動物画の冒険	10/28～12/3 (32日間)	16,326	5,212	21,538	673
青銅器館 中国青銅器の時代 (企画展開催期間外入館者)	上記企画展と 同じ	0	24	24	—
平成29年度入館者計	169日間	68% 25,985	32% 12,401	対前年比 +16,017 38,386	227

分館（東京）

展覧会名	期間	入館者数			
		有料	優待	計	1日平均
屏風にあそぶ春のしつらえ —茶道具とおもてなしのうつわ	2/25～5/7 (60日間)	2,840	3,217	6,057	101
名刀礼賛 —もののふ達の美学	6/1～8/4 (56日間)	5,272	2,521	7,793	139
浅井忠の京都遺産 —京都工芸繊維大学美術工芸コレクション	9/9～10/13 (30日間)	2,048	2,986	5,034	168
典雅と奇想 —明末清初の中国名画展	11/3～12/10 (33日間)	3,013	2,383	5,396	164
平成29年度入館者計	179日間	54% 13,173	46% 11,107	対前年比 +3,756 24,280	136

	有料	優待	計
入館者本分館合計	39,158	23,508	対前年比 +19,773 62,666

平成 29 年度公開事業 本館（京都）

中国青銅器の時代

会期：企画展覧会と同時開催

住友コレクションの中核をなす中国商周時代の祭祀用青銅器について、従来の展示方法を一新した。

4つの展示室それぞれにテーマを設定し、名品、概説、文様、日本を含むそれ以降の時代への展開に分けて、青銅器の魅力を紹介した。



展示室エントランス

第1展示室 青銅器名品選 — いにしへの造形美 —
当館収蔵青銅器の中から選りすぐりの名品を展示する。商周青銅器の大きな特徴である卓抜した造形の美しさを伝える作品を紹介する。



第1展示室

第2展示室 青銅器の種類 — 豪華な道具たち —
様々な祀りや儀式で用いられた多種多様な器の用途を紹介する展示室。神に捧げる酒や食物の器、陰陽を調和する楽器、手を清める器などを展示する。



第2展示室

第3展示室 青銅器の文様 — 神秘のデザイン —
青銅器にあらわされた文様に焦点を当てた展示室。後の時代に受け継がれ、中華を代表する文様モチーフとなった龍や鳳凰などを紹介する。



第3展示室

第4展示室 青銅文化の展開
— 文化が産むもの、文化を産むもの —
漢時代から清時代に至る金属工芸を陳列。商周青銅祭器を模倣しながら発達した銅花器や銅香炉や銅鏡を紹介する。



第4展示室

関連催事

- ・ギャラリートーク：廣川守 3月25日（15名）、5月6日（25名）、7月8日（21名）、9月30日（18名）、10月28日（17名）

楽しい隠遁 山水に遊ぶ ー雪舟、竹田、そして鉄斎

会期：3月4日ー5月7日

隠遁をキーワードとして、中国や日本の文人達が憧れた世界を紹介。理想の隠遁空間をイメージして描かれた日本の山水画とともに、文人達が愛玩した書斎の調度品や文房具、煎茶道具を展示。



関連催事

- ・ギャラリートーク：外山潔 3月11日(28名)、4月1日(36名)、4月8日(24名)
- ・特別鑑賞会 3月30日(25名) 31日(23名) 「美術と名庭のひととき」
「楽しい隠遁 山水に遊ぶ」展解説と住友有芳園見学。
- ・ワークショップ
4月15日(64名)、16日(69名)
「鋳物体験 ～古印をつくろう」
講師：新郷英弘氏、八木孝弘氏、
樋口陽介氏 (芦屋釜の里)
青銅器制作技法になぞらえた鋳造イベント。
幅広い世代が多数参加した。



特別展 浅井忠の京都遺産 —京都工芸繊維大学 美術工芸コレクション
会期：5月20日－7月9日

日本洋画壇の先覚者・浅井忠（1856-1907）。浅井は、明治33年（1900）訪れたフランス・パリで図案研究の必要性を感じ、京都高等工芸学校（現・京都工芸繊維大学）教授として図案家の育成に努めた。京都工芸繊維大学と泉屋博古館所蔵作品から彼の多彩な足跡をたどる。



展覧会開催に併せて、小冊子『浅井忠の京都遺産—京都工芸繊維大学 美術工芸コレクション』を刊行した。



小冊子『浅井忠の京都遺産—京都工芸繊維大学 美術工芸コレクション』

関連催事

- ・ギャラリートーク：

森下愛子 6月3日(26名) 実方葉子 7月1日(51名)

- ・ゲストギャラリートーク 6月24日(35名)

和田積希氏(京都工芸繊維大学美術工芸資料館学芸員)



- ・講演会 6月10日(49名)

「浅井忠とデザイン教育の夜明け 京都工芸繊維大学コレクションから」

並木誠士氏(京都工芸繊維大学美術工芸資料館館長)

京都高等工芸学校のために浅井忠らが選んだ教材を通じ、明治期京都の工芸デザインの理想とその背景を解説。



- ・マルシェ・ミュゼ 5月27日(94名入館展示見学)、28日(127名入館展示見学)

パリに学んだ浅井にちなむイベント。新規来館者開拓を意図。マルシェ出展店舗の購買者に割引入館券配布。主催：ena farm



うるしの彩り ー 漆黒と金銀が織りなす美の世界

会期：9月2日ー10月15日

住友家に伝わった漆工芸を一堂に展示する初の試み。会席食器類や書斎を飾る硯箱など主に賓客をもてなす場で使われた華やかな調度品とともに、茶、香、能などの伝統文化の中で重用された道具類も紹介。日本の作品の他文人達が愛玩した中国や琉球の作品も紹介。



関連催事

・ギャラリートーク：

外山潔 9月9日(22名)、10月14日(38名)

・ワークショップ「蒔絵体験 ～うるしを彩ろう」

9月7日(46名)

講師：蒔絵塾 足立康庸氏

漆芸工法のひとつとして蒔絵を学ぶイベント。



特別展 木島櫻谷 近代動物画の冒険

会期：10月28日 - 12月3日

近代京都を代表する日本画家木島櫻谷（1877-1938）の生誕140年記念展。生前より最も評価の高かった動物画に焦点をあて、生涯にわたる動物画の変遷を新品を多数まじえて展示。徹底した写生を基礎に、卓越した技術と独自の感性により創造された動物の豊かな表情が注目された。



展覧会開催に併せて、図録『木島櫻谷—近代動物画の冒険』（3,500部）を刊行した。



図録『木島櫻谷 — 近代動物画の冒険』

関連催事

- ・特別講演会 11月18日(108名)

「櫻谷の動物画ー美しき存在」

竹内浩一氏(日本画家)

動物をライフワークとする日本画の第一人者が、櫻谷について、また動物を見つめ描くことの意味を語った。



- ・講演会 11月11日(99名)

「櫻谷遺愛の絵の具からわかること」

高林弘美氏

(京都市立芸術大学准教授)

進行中の櫻谷文庫旧蔵顔料調査の速報として概要を紹介。日本画の絵具開発が進んだ近代の様相をもうかがう。



- ・ワークショップ 11月11日(31名)

「櫻谷の描き方を追体験しよう」

講師：宇野茂男氏

(京都市立芸術大学教授)

作品の模写を通して櫻谷の技法を学ぶイベント。



- ・講座 11月25日(105名)

「櫻谷の生涯と動物画」 実方葉子

- ・ギャラリートーク

実方葉子 11月4日(83名)



平成 29 年度公開事業 分館（東京）

屏風にあそぶ春のしつらえ — 茶道具とおもてなしのうつわ

会期：2月25日－5月7日

春を彩る屏風の名品や、新収蔵品のおもてなしのうつわをあわせて紹介。分館では5年ぶりに、江戸時代・寛永3年（1626）、後水尾天皇が京都・二条城に行幸する様子を描いた《二条城行幸図屏風》と共に、同時代の茶道具も展示。



第1展示室

関連催事

・ギャラリートーク：

野地耕一郎 3月4日（30名）、4月15日（35名）

実方葉子 3月11日（25名）、4月22日（40名）

森下愛子 3月2日（10名）、3月17日（15名）、4月7日（20名）、

4月13日（25名）



黒川古文化研究所 + 泉屋博古館連携企画特別展 名刀礼賛 —もののふ達の美学

会期：6月1日－8月4日

昭和25年（1950）兵庫県に設立された黒川古文化研究所。国宝「短刀無銘（名物伏見貞宗）」や重要文化財「太刀銘備前国長船住景光」など、平安時代から江戸時代までの刀剣の中から約30口の名刀を紹介。黒川古文化研究所の名品が一堂に会する貴重な機会となった。所蔵の甲冑や刀装具、書画などもあわせて展示。



第1展示室



関連催事

・ゲストトーク：

川見典久氏（黒川古文化研究所研究員） 6月17日（73名）、7月8日（80名）

・ギャラリートーク：

野地耕一郎 6月3日（50名）、7月1日（40名）、7月22日（55名）

・ロビーコンサート：

「尺八ザムライ」 6月24日（43名） 演奏：田嶋謙一氏（直簫流尺八奏者）



ロビーコンサート



ゲストトーク

特別展 浅井忠の京都遺産 — 京都工芸繊維大学 美術工芸コレクション
会期：9月9日－10月13日

京都本館で開催した春季展の巡回展。

日本洋画壇の先覚者・浅井忠（1856-1907）。浅井は、明治33年（1900）訪れたフランス・パリで図案研究の必要性を感じ、京都高等工芸学校（現・京都工芸繊維大学）教授として図案家の育成に努めた。京都工芸繊維大学と泉屋博古館所蔵作品から彼の多彩な足跡をたどる。



第1展示室



第2展示室

関連催事

・講演会：

9月9日（44名）

「浅井忠とデザイン教育の夜明け 京都工芸繊維大学コレクションから」

並木誠士氏（京都工芸繊維大学美術工芸資料館館長）



・講演会：

9月30日（52名）

「浅井忠と京都の文化人たち」

後藤隆基氏

（立教大学社会学部教育研究
コーディネーター）



・ゲストトーク：9月23日（30名）

和田積希氏

（京都工芸繊維大学
美術工芸資料館学芸員）



・ギャラリートーク：

森下愛子 9月15日（15名）、9月21日（10名）、9月29日（20名）、
10月5日（45名）

・アークヒルズ音楽週間ロビーコンサート：

“Concert d'Automne” 10月7日（95名）

演奏：茂木新緑氏（N響楽友、チェリスト）

バッハ無伴奏チェロ組曲、ほか



特別展 典雅と奇想 — 明末清初の中国名画展

会期：11月3日－12月10日

明代末から清代初め（16～18世紀初）の中国で活躍した呉派の典雅な山水画と、奇想の造形を生みだした徐渭や石濤、八大山人らにスポットを当てた展覧会。当館のコレクションを軸に他の美術館・博物館所蔵の名品を加え、歴史の変動期に生きた画人達の作品を紹介。



第1展示室



第2展示室

展覧会開催に併せて、図録『典雅と奇想 明末清初の中国名画展』（2,200部）を出版した。



図録『典雅と奇想 明末清初の中国名画展』



内覧会風景

関連催事

・ゲストトーク：

11月4日（50名）、11月25日（85名）

板倉聖哲氏（東京大学東洋文化研究所・情報学環教授）



・ギャラリートーク：

野地耕一郎 11月11日（35名）、12月2日（60名）



平成 29 年度の主な調査研究事業

1. 泉屋博古館紀要の発行

泉屋博古館紀要第 33 巻を 11 月に刊行した。

本号は、中谷伸生論文、小南一郎論文（21 頁参照）、下田誠・崎川隆・廣川守による館蔵戈調査に関する論文（18 頁参照）、廣川守ほかの論文（18 頁参照）、森下愛子論文（19 頁参照）の合計 5 編を掲載した。

上記 5 編のうち、中谷伸生氏（関西大学教授）の論考は、泉屋博古館京都にて開催した平成 28 年春講演会の要旨をもとに再構築したものである。

2. 館蔵品研究

・「編鐘復元研究」（廣川）

館蔵編鐘の考古学的、科学的分析を行い、編鐘復元を試みる。成分分析、組織観察、3D 計測、紋様施紋技法研究、原型制作、熱処理実験、復元実験のプロセスを経る（平成 28 年度から 5 年間）。平成 29 年度は型取による中子構造の検証と金属溶解の検証を実施し、編鐘内面の型取りを実施し、型持の構造を解明した（芦屋釜の里研究員等との共同調査、日本学術振興会科研費 JP17K03230 による研究）。

主な成果

1. アジア鑄造技術史学会 2017 年台北大会にて、「東周時代の鐘の中子製作技法」をポスター発表。
2. 泉屋博古館紀要第 33 巻に「露氏編鐘の中子構造」を掲載（共著）。



泉屋博古館紀要第 33 巻 76・77 頁

・「館蔵戈の蛍光 X 線分析研究」（廣川）

館蔵の二十四年𠄎陰銘戈について蛍光 X 線分析を実施し、データ解析をおこなった。

主な成果

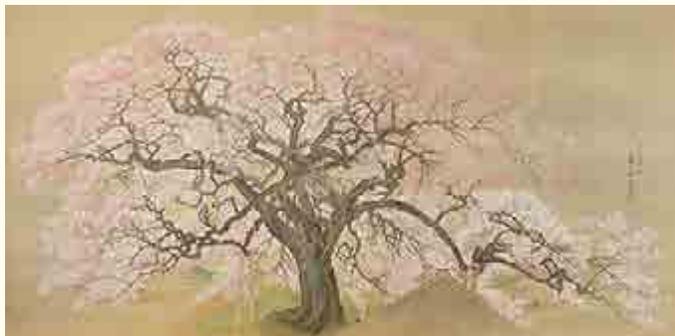
1. 泉屋博古館紀要第 33 巻に、下田誠・崎川隆「泉屋博古館所蔵「二十四年𠄎陰戈」銘文辨偽」の付論として「泉屋博古館所蔵「二十四年𠄎陰戈」の蛍光 X 線分析」を掲載。

・「幕末における菊池容斎作品についての調査研究」（野地）

菊池容斎作「桜図」をめぐる幕末期人的交流についての調査研究。

主な成果

1. 『国華』第1459号（2017年5月刊）に「菊池容斎 桜図」解説として掲載。



・「狩野芳崖以後の明治後半期の日本画研究」（野地）

狩野芳崖の鑑画会時代の革新画風がその後の日本画に与えた多角的な影響を門下生の遺作を中心に福井県立美術館と共同調査研究。

主な成果

1. 書籍兼図録として刊行した『狩野芳崖と四天王—近代日本画、もうひとつの水脈』（求龍堂、2017年9月）に論考などを掲載（共著）。



・「住友コレクションにみる板谷波山作品の収集についての調査研究」（森下）

主な成果

1. 泉屋博古館紀要33巻に同題名で論考を掲載。



・「木島櫻谷の調査研究」(実方)

櫻谷文庫所蔵の、櫻谷旧蔵の顔料類の分析を、同文庫及び京都市立芸術大学と共同で調査する。また櫻谷宛書簡の整理を行う。H21年度から継続。

主な成果

1. 櫻谷文庫所蔵の写生資料および書簡のデータベース作成をすすめた。また櫻谷旧蔵顔料類の分析を同文庫及び京都市立芸術大学と共同調査、500件以上にのぼる色料の基礎データベースを作成した。その他の作品調査とあわせ、本年度本館および来年度分館での展覧会「木島櫻谷—近代動物画の冒険」およびその図録で発表。



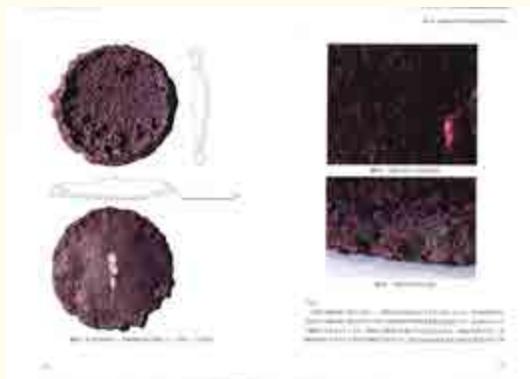
3. 住友関連研究

・「江戸期住友銅製錬関連製品研究」(村山・廣川)

別子銅山関連遺物の科学的分析研究。29年度で完了。

主な成果

1. 調査最終報告書『近世住友の銅精錬技術』(本文編 263頁、データ一覧 143頁)を刊行。



・「住友家邸宅及び美術品収集経緯研究」(実方)

従来のコレクション形成研究に併せ、それを飾った邸宅調査を行い、住友コレクションの特徴を多角的に検討する。対象は、須磨邸、茶白山邸、麻布邸。29年度は須磨邸復元模型制

作に関連した調査を住友史料館と共同でまとめた。

主な成果

1. 『「住友家須磨別邸復元模型」制作報告書』を7月に住友史料館と共同刊行。



4. その他研究

- ・「中国初期国家時代の制度と文化」（小南）
中国文明の形成について、出土文物を資料とし、文献資料と組み合わせつつ、その具体的な様相を探求する。H29年度から5年間。

主な成果

1. 泉屋博古館紀要第33巻に「漢字の出現—大口尊の刻文を中心にして」を掲載。



泉屋博古館紀要第33巻 18・19頁

5. 連携調査研究

- ・中国隋唐時代金属器の蛍光X線分析調査（廣川）
岡村秀典京都大学人文科学研究所教授を研究代表者とする隋唐時代金属器調査（北京、洛陽、貴陽）に参加し蛍光X線分析を実施した。
- ・中国内モンゴル金属器の蛍光X線分析調査（廣川）
小田木治太郎天理大学文学部准教授を研究代表者とする内モンゴル中南部金属器調査に参加し、蛍光X線分析を実施した。
- ・日本所蔵中国金銅仏の高精度三次元デジタル計測調査（外山）
三船温尚富山大学芸術学部教授を研究代表者とする計測調査に参加。

主な成果

1. アジア鑄造技術史学会 2017年台北大会「根津美術館所蔵釈迦多宝二仏並坐像の3D画像分析による鑄造技法と造形表現の検討」（共同発表）

美術品の修復

1. 木彫毘沙門天立像

本体を解体し、矧ぎ目の緩みと虫喰部の補修、及び漆箔の剥落止と黴除去を、住友財団平成 29 年度修復助成を受け実施。



修復前（背面）



修復後

木彫毘沙門天立像

2. 池田泰真「野菜盛籠額」

表面の汚れ除去と、傷の修復を行う。



修復前



修復後

池田泰真「野菜盛籠額」

平成 29 年度職員の外部機関協力

1. 職員による外部講演

- ・ 廣川守 「青銅器にあらわされた文字」
4月9日 京都市美術館「漢字三千年－漢字の歴史と美」展関連講演
- ・ 森下愛子 「住友コレクションの礎－住友春翠と邸宅美術館－」
4月16日 学習院大学輔仁会史学部桜史会講演会
- ・ 廣川守 「古代中国鏡 千石コレクションの魅力語る」
6月17日 兵庫県立考古博物館加西分館開館記念フォーラム講演
- ・ 実方葉子 「ヴェールを脱ぐ観音－高麗仏画《水月観音像》の解体修理にともなう総合調査」
8月30日 IUMRS ICAM2017(素材研究の学術団体が構成する国際機関)英語講演
- ・ 実方葉子 「学芸員が語る木島櫻谷の魅力」
8月31日 京都新聞主催「京都政経文化懇話会」講演
- ・ 小南一郎 「林巳奈夫教授的学問方法与成果」
9月15日 復旦大学出土文献与古文字研究中心講演
- ・ 実方葉子 「もっと知りたい！京都のミュージアム 泉屋博古館－木島櫻谷展を前に」
10月16日 仏教大学四条センター公開講座
- ・ 野地耕一郎 「近代日本画としての一高歴史画について」
12月2日 東京大学駒場博物館 東京大学駒場博物館所蔵第一高等学校絵画資料修復記念－知られざる明治期日本画と「一高」の倫理・歴史教育－記念シンポジウム
- ・ 野地耕一郎 「なぜ今、芳崖四天王を評価するのか」
12月9日 山梨県立美術館「狩野芳崖と四天王展」シンポジウム
- ・ 外山潔 「金銅仏の研究と展示」
12月23日 龍谷大学

2. 外部機関への協力

- ・ 大学博物館過程実習の受け入れ
本館（京都）にて、7月24日－7月28日、関西の4大学10名に対する博物館実習を受け入れ、分館（東京）にて、8月29日－9月6日、関東の2大学2名に対する博物館実習を受け入れた。
- ・ 大学への出講
野地耕一郎「博物館実習（美術史）」「日本美術史研究Ⅲ AB」「日本美術史特殊研究Ⅲ AB」

成城大学 平成 29 年 4 月 1 日—平成 30 年 3 月 31 日

森下愛子「東洋美術史 B Ⅲ」お茶の水女子大学 平成 29 年 10 月 1 日—平成 30 年 3 月 31 日

3. 広報活動

・SNS を活用した広報活動

フェイスブック投稿（展覧会紹介等）の実施 本館 90 回 分館 87 回

分館にてブロッガー内覧会を開催（ウインダム主催）

「屏風にあそぶ春のしつらえ」展 2 月 22 日 52 名参加

「名刀礼賛」展 5 月 31 日 47 名参加

「浅井忠の京都遺産」展 9 月 7 日 47 名参加

「典雅と奇想」展 11 月 2 日 47 名参加

・新聞、テレビ等を通じたの広報活動（抜粋）

3 月 5 日 テレビ東京「平成のリサイクル密着 24 時」沈南蘋筆《雪中遊逸図》

3 月 19 日 NHK「日曜美術館」アートシーン「楽しい隠遁」展

4 月 5 日 B S 11「尾上松也の謎解き歴史ミステリー」二条城行幸図屏風

4 月 14 日 B S - T B S「高島礼子日本の古都～その絶景に歴史あり～」二条城行幸図屏風

5 月 18 日 NHK発掘！お宝ガレリア」二条城行幸図屏風

5 月 19 日 京都新聞特集記事（全面）「浅井忠」展（主催）

6 月 10 日 テレビ東京「美の巨人たち」板谷波山・葆光彩磁珍果文花瓶

8 月 17 日 毎日放送「京都知新」伝紀貫之《寸松庵》

9 月 15 日 毎日新聞夕刊「出かけてみませんか」「浅井忠の京都遺産」展

9 月 21 日～11 月 B S フジ、毎日放送で TV / ラジオ CM 「木島櫻谷」展

9 月 28 日 FM ラジオ「ハニーモーニングトレイン」生出演「うるしの彩り」展

10 月 2 日 毎日新聞夕刊「アートの扉」梅図花生（「浅井忠の京都遺産」展）

10 月 9 日 B S フジ「アートな夜！」 「木島櫻谷」展

10 月 15・22 日 日本経済新聞「美の粋」 「木島櫻谷」展

10 月 24 日 朝日新聞夕刊文化面「典雅と奇想」展広告

10 月 27 日 京都新聞特集紙面「木島櫻谷」展（主催）

10 月 28 日 B S フジ「よみがえる京都画壇の巨匠＝木島櫻谷～近代動物画の魅力！」
「木島櫻谷」展

11 月 5 日 NHK「日曜美術館」アートシーン「典雅と奇想」展

11 月 6 日 毎日放送「ちちんぷいぷい」 「木島櫻谷」展

11 月 19 日 NHK「日曜美術館」本編 「木島櫻谷」展

11 月 29 日 毎日新聞夕刊「評 展覧会」 「典雅と奇想」展

施 設 工 事

- ・本館5室西展示ケース更新
難燃性の素材を用い、また照明も増加し、鑑賞性に優れた展示ケースを制作した。制作費327万円。
- ・分館第1展示室壁面ケースガラス低反射フィルム貼付
良好な観賞環境の提供及び地震発生時の安全確保のため、第1展示室についても、低反射フィルムの貼付を行った。作業費137万円。

博物館評価委員会の開催

当館では展示、研究、保存などの事業について、その実績・内容、今後の計画などに対し客観的評価を得て、活動水準の高度化を図るため、外部有識者を中心とした評価委員会を定期的に開催している。平成29年度は以下の委員会を開催した。

3月10日 住友会館（東京）、評価委員5名、学芸員4名が出席。

「高麗仏画展」「明治有田超絶の美」の図録を評価。

泉屋博古館設立の目的

当館は、住友家の収集にかかる古代青銅器を中心とする国宝、重要文化財等の美術工芸品および当館が取得した文化財の保存および公開、並びにこれらに関する調査研究を行い、学術研究の発展を図り、もって我が国の文化の向上と文化財の保護に寄与することを目的としております。

泉屋博古館の事業

当館は、上記目的を達成するため、次の事業を行います。

- (1) 美術工芸品の収集、保存および公開
- (2) 美術工芸品に関する調査研究、紀要、解説書、図録などの発行
- (3) 美術工芸品に関する研究会、講演会等の開催
- (4) 美術館の設置、運営
- (5) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

賛助会員 平成29年12月31日現在

特別法人会員

住友化学株式会社	住友重機械工業株式会社
株式会社三井住友銀行	新日鐵住金株式会社
住友金属鉱山株式会社	住友商事株式会社
三井住友信託銀行株式会社	住友生命保険相互会社
株式会社住友倉庫	住友電気工業株式会社
三井住友海上火災保険株式会社	日本板硝子株式会社
日本電気株式会社	住友不動産株式会社
住友大阪セメント株式会社	三井住友建設株式会社
住友ベークライト株式会社	住友林業株式会社
住友ゴム工業株式会社	大日本住友製薬株式会社

法人会員

ワケンホールディングス株式会社

個人会員（敬称略）

熊澤保夫 酒木良介 谷水雄三 山田康之

法人概要

役員・評議員

平成29年12月31日現在

理事長	宮原賢次	住友商事名誉顧問
常務理事	屋代榮	住友成泉社長
理事	岡村秀典	京都大学教授
	奥正之	三井住友フィナンシャルグループ名誉顧問
	熊倉功夫	MIHO MUSEUM 館長
	小南一郎	泉屋博古館長、京都大学名誉教授
	酒井忠康	世田谷美術館長
	佐々木丞平	京都国立博物館長
	佐藤義雄	住友生命保険会長
	住友吉左衛門	住友財団理事長
	高橋温	三井住友信託銀行特別顧問
	友野宏	新日鐵住金相談役
	西上実	京都国立博物館名誉館員
	矢野薫	日本電気特別顧問
監事	磯野與志嗣	税理士
	小野寺研一	住友不動産副会長
	家守伸正	住友金属鉱山相談役
評議員	安部正一	住友倉庫会長
	秦喜秋	三井住友海上火災保険シニアアドバイザー
	住友信夫	
	関根福一	住友大阪セメント社長
	田邊三郎助	町田市立博物館長
	十倉雅和	住友化学社長
	中村吉伸	住友重機械工業会長
	則久芳行	三井住友建設会長
	林茂	住友ベークライト社長
	藤本勝司	日本板硝子名誉顧問
	松本正義	住友電気工業会長
	馬淵明子	国立西洋美術館長
	矢野龍	住友林業会長

法人概要

貸借対照表

平成 29 年 12 月 31 日現在

単位：円

科 目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	100,884,754	74,021,849	26,862,905
棚卸資産	2,743,254	0	2,743,254
仮払金	150,000	150,000	0
前払金	26,130	34,479	-8,349
前払費用	847,733	847,733	0
立替金	3,714,833	2,265,576	1,449,257
未収金	264,202	452,381	-188,179
流動資産合計	108,630,906	77,772,018	30,858,888
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
美術品	6,410,302,120	6,410,302,120	0
土地	2,882,732,000	2,882,732,000	0
建物	744,595,423	780,650,518	-36,055,095
構築物等	2,730,732	3,158,085	-427,353
投資有価証券	3,466,570,268	3,476,890,587	-10,320,319
定期預金	100,000,000	100,000,000	0
基本財産合計	13,606,930,543	13,653,733,310	-46,802,767
(2) 特定資産			
営繕積立資産	7,513,199	7,513,199	0
基本財産購入積立資産	14,773,807	14,773,807	0
保存公開事業積立資産	3,002,700	3,002,700	0
調査研究事業積立資産	20,431,000	20,431,000	0
本館改良工事資金	11,268,480	0	11,268,480
特定資産合計	56,989,186	45,720,706	11,268,480
(3) その他固定資産			
建物	6,247,452	7,474,300	-1,226,848
その他	32,457,750	34,686,180	-2,228,430
投資有価証券	1,127,890	1,136,060	-8,170
長期前払費用	619,004	1,466,737	-847,733
その他固定資産合計	40,452,096	44,763,277	-4,311,181
固定資産合計	13,704,371,825	13,744,217,293	-39,845,468
資産合計	13,813,002,731	13,821,989,311	-8,986,580
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	19,583,605	10,686,735	8,896,870
預り金	915,734	840,590	75,144
流動負債合計	20,499,339	11,527,325	8,972,014
2. 固定負債			
その他固定負債	23,595,082	0	23,595,082
固定負債合計	23,595,082	0	23,595,082
負債合計	44,094,421	11,527,325	32,567,096
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
基本財産 美術品	6,409,708,120	6,409,708,120	0
基本財産 土地	2,882,732,000	2,882,732,000	0
基本財産 建物	667,664,695	707,633,314	-39,968,619
基本財産 構築物等	2,730,732	3,158,085	-427,353
寄付金	5,285,436	5,958,334	-672,898
指定正味財産合計	9,968,120,983	10,009,189,853	-41,068,870
(うち基本財産への充当額)	(9,962,835,547)	(10,003,231,519)	(-40,395,972)
2. 一般正味財産			
一般正味財産合計	3,800,787,327	3,801,272,133	-484,806
(うち基本財産への充当額)	(3,644,094,996)	(3,650,501,791)	(-6,406,795)
(うち特定資産への充当額)	(56,989,186)	(45,720,706)	(11,268,480)
正味財産合計	13,768,908,310	13,810,461,986	-41,553,676
負債及び正味財産合計	13,813,002,731	13,821,989,311	-8,986,580

法人概要

正味財産増減計算書

平成 29 年 1 月 1 日から平成 29 年 12 月 31 日まで

単位：円

科 目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	66,668,994	69,462,307	-2,793,313
特定資産運用益	2,836	21,928	-19,092
入場料	28,633,317	15,804,102	12,829,215
事業収益	15,425,255	11,992,794	3,432,461
受取補助金等	補助金等 9,015,000	1,821,000	7,194,000
受取寄付金	寄付金 127,846,000	120,000,000	7,846,000
	指定正味財産からの振替額 41,703,910	49,628,285	-7,924,375
雑収益	3,667,379	1,186,969	2,480,410
経常収益計	292,962,691	269,917,385	23,045,306
(2) 経常費用			
事業費			
展覧会費	33,450,370	36,251,451	-2,801,081
美術品修繕費	3,021,200	1,459,040	1,562,160
調査研究費	8,276,242	3,986,139	4,290,103
広告宣伝費	5,228,159	4,659,608	568,551
給与費	65,487,165	66,446,152	-958,987
雑給	4,203,930	3,671,593	532,337
旅費交通費	5,695,869	6,043,548	-347,679
通信運搬費	1,243,529	1,037,764	205,765
光熱水道費	8,325,745	6,982,264	1,343,481
消耗品費	3,832,490	2,616,685	1,215,805
保守費	19,080,969	17,699,124	1,381,845
雑費	969,010	1,681,638	-712,628
基本財産減価償却費	41,897,633	47,269,469	-5,371,836
其他固定資産減価償却費	9,987,850	12,240,837	-2,252,987
事業費計	210,700,161	212,045,312	-1,345,151
管理費			
給与費	33,106,763	33,577,441	-470,678
旅費交通費	1,693,326	1,575,404	117,922
通信運搬費	1,358,486	1,277,886	80,600
光熱水道費	4,175,375	3,504,314	671,061
消耗品費	1,871,278	1,255,624	615,654
保守費	8,576,586	8,287,083	289,503
雑費	8,679,144	4,204,935	4,474,209
基本財産減価償却費	1,448,575	1,580,154	-131,579
其他固定資産減価償却費	599,749	280,981	318,768
管理費計	61,509,282	55,543,822	5,965,460
経常費用計	272,209,443	267,589,134	4,620,309
評価損益等調整前当期経常増減額	20,753,248	2,328,251	18,424,997
基本財産評価損益等	-4,723,830	5,859,484	-10,583,314
投資有価証券評価損益等	-8,170	4,514	-12,684
評価損益等計	-4,732,000	5,863,998	-10,595,998
当期経常増減額	16,021,248	8,192,249	7,828,999
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
其他固定資産受贈益	0	164,791	-164,791
経常外収益計	0	164,791	-164,791
(2) 経常外費用			
基本財産除却損	0	2,374,362	-2,374,362
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	16,497,707	0	16,497,707
其他固定資産除却損	8,347	4	8,343
経常外費用計	16,506,054	2,374,366	14,131,688
当期経常外増減額	-16,506,054	-2,209,575	-14,296,479
当期一般正味財産増減額	-484,806	5,982,674	-6,467,480
一般正味財産期首残高	3,801,272,133	3,795,289,459	5,982,674
一般正味財産期末残高	3,800,787,327	3,801,272,133	-484,806
II 指定正味財産増減の部			
固定資産受贈益	0	279,581,000	-279,581,000
受取寄付金	635,040	6,500,000	-5,864,960
一般正味財産への振替額	-41,703,910	-49,628,285	7,924,375
当期指定正味財産増減額	-41,068,870	236,452,715	-277,521,585
指定正味財産期首残高	10,009,189,853	9,772,737,138	236,452,715
指定正味財産期末残高	9,968,120,983	10,009,189,853	-41,068,870
III 正味財産期末残高	13,768,908,310	13,810,461,986	-41,553,676

泉屋博古館の紹介

第1回 青銅器・鏡鑑

今年度の年報より、一回にひとつのテーマで当館のご紹介をしたいと思います。館藏品や建物、庭あるいはご近所の情報など、アットランダムにご紹介します。

泉屋博古館では、日本、中国、西洋の多種多様な美術品を収蔵していますが、今回は、このうち青銅器・鏡鑑をご紹介します。

泉屋博古館の館藏品としてまず採り上げたいのが、青銅器、鏡鑑のコレクションです。このうち中国古代の青銅祭器コレクションは、質の点でも数の点でも優れたものとして、世界的に高く評価されています。当館は、昭和35年に、これらの青銅器・鏡鑑の研究・保存・公開を目的とする財団法人として設立されました。

総数400件余りにのぼるコレクションは、住友家の第15代当主住友吉左衛門（雅号は「住友春翠」といいます。）が、明治30年代から大正期にかけて蒐集したものが大半を占めています。中国の商・周時代（紀元前17世紀～紀元前221年）の青銅祭器の主要器種がほぼ揃っており、金文（青銅器の表面に鑄込まれた文字）をほどこした器も充実しています。そのため、美術品としての価値とともに、第一級の歴史史料としての価値も併せ持っています。

住友春翠は、明治末から大正期にかけて、写真つきの青銅器図録『泉屋清賞』『増訂泉屋清賞』を発刊し、青銅器を広く世界に紹介しています。春翠はその序のなかで「中国青銅器は単に古道具として鑑賞するだけのものではない。青銅器は歴史史料として、また工芸美術の模範として重視すべきである」とし、さらに「邸内に秘蔵するのではなく、調査研究を進めながら、青銅器の価値を世に広めなければならない」と記していますが、この考えは現在の当館にも引き継がれています。また、当館の青銅器は、中国で出土する第一級の青銅器と比べても遜色がない美的・学術的な価値を持っており、今日多くの青銅器が発見されているなかで改めて認識されているところです。

こ ゆう
虎 卣

商時代後期（前 11 世紀）

高 35.7cm 重 5.0kg

神に供える酒を持ち運びする器。虎が尻尾と後足で立ち上がり、前足で人物を抱きかかえる姿で全体をあらわしています。複雑な造形に加え、全面に精緻な文様を飾っています。数多い商周青銅祭器のなかでもきわめて秀れた出来栄の逸品であり、住友コレクションの象徴的存在です。



き じん こ
夔 神 鼓

商時代後期（前 11 世紀）

高 82.0cm 重 71.1kg

大型の青銅製太鼓。全体に 3～5mm くらいで非常に薄く造られています。当時の鑄造技術がきわめて高かったことを示す名品です。同じくらいの寸法のもは、他に 1 点しか発見されておらず、非常に珍しく貴重な品です。

ちようざんときん ぶ ほうざんげい
貼銀鍍金舞鳳狻猊八稜鏡

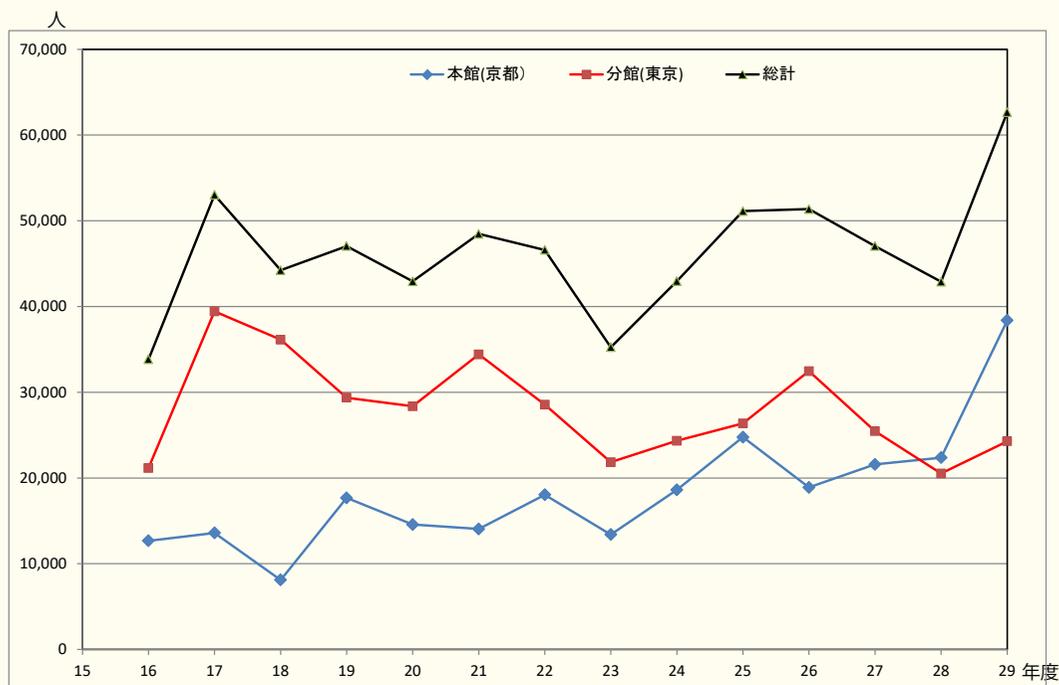
盛唐（8 世紀初頭）

径 24.5cm 重 2.0kg

顔を映す面と反対の面に鍍金をほどこした銀板を貼り付けた鏡。銀板には打ち出で一对の鳳凰と獅子の文様を表現しています。広大な版図を誇った唐王朝の最盛期に製作された豪華絢爛たる優品です。



入館者の推移



平成 30 年 展覧会 予定

本館 (京都)

付属品とたのしむ茶道具 - 千宗旦から松平不昧まで、江戸時代の茶人の書とともに	3月 3日 - 5月 6日
絵描きの筆ぐせ、腕くらべ - 住友コレクションの近代日本画	5月 26日 - 7月 8日
特別展 仏教美術の名宝	9月 8日 - 10月 14日
特別展 フルーツ&ベジタブルズ - 東アジア蔬果図の系譜	11月 3日 - 12月 9日

分館 (東京)

特別展 木島櫻谷 - Part1 近代動物画の冒険	2月 24日 - 4月 8日
- Part2 木島櫻谷の「四季連作屏風」+ 近代花鳥図屏風尽し	4月 14日 - 5月 6日
うるしの彩り - 漆黒と金銀が織りなす美の世界	6月 2日 - 7月 16日
特別展 狩野芳崖と四天王 - 近代日本画、もうひとつの水脈	9月 15日 - 10月 28日
神々のやどる器 - 中国青銅器の文様	11月 17日 - 12月 24日